



宝塚市立良元小学校 学校通信

良元通信

家庭数配布

みんなにとって良いことを みんなが元気になることを 令和5年(2023)11月2日号
校長 狩野 洋光

いまここにいる人の幸せが大切

「どんな子どもに育てたいですか？」これは、私が教員になって初めての学級懇談会で、ある保護者の方から質問された言葉です。わたしは、「やさしい子を育てたいです」と答えました。答えたものの、「やさしいってなに？」と考えるようになりました。導き出した答えは、「人を大切にできる子(人権を大切にする子)」でした。

いじめや差別をなくすにはどうすればいいのか。「なくす」ではなく、いじめや差別に「負けない」ことが大事なのではないだろうか。そんなことを考えてきました。

ここ数年は、教育の目的は「幸せになること」だと考えています。ウェルビーイングですね。みんなが幸せになるために、みんなの人権が守られるために、様々な法律がつくられています。国際的な取り組みも広がっています。SDGsは取り組みの一つです。

来週の人権同和参観懇談会では、みんなが幸せになるための方法を一緒に考えていきたいですね。どうぞ宜しくお願いいたします。

朝ドラ「らんまん」より

植物学者の牧野富太郎の生涯をドラマ化した「らんまん」は、主人公の榎野万太郎が、裕福な酒屋にうまれたにもかかわらず、植物学者を志すお話です。

こんな場面がありました。

万太郎が家を継がずに植物学者を目指すことになり、酒屋は姉と番頭の息子が継ぐことになります。その時、親戚から大きな不満が出ました。「男が家を継がないこと」「女が酒をつくること」「継ぐものがないなら親戚がいるのに、なぜ使用人と・・・」

古い考えから、親戚もだまっていませんでした。そこで万太郎を育てた祖母のタキがこう話します。

「家、ゆうがは、なんじゃろうのう。血筋、金、格式、何を守ってきたがじゃろう。
それよりも いまここにおる おまんらの 幸せが肝心だがじゃ。この先を
すこやかに 幸せに生きていく。家の願いじゃのおて おのれの願いに
生きていくことが・・・」

もともとはタキも古い考え方の人でした。しかし、万太郎の幸せを思う中で、考えが変わっていきました。タキにふだんから見下されていた親戚が、これまでの怒りをぶちまけます。

「いまさらなんじゃ これまでさんざん 本家と分家を区別して どのどいつじゃ
わしら分家を ずっとずっと見下してきたがは誰じゃ」

「商いじゃち わしらは本家の顔色をうかがいながらやってきたじゃろうが」

「ほうじゃのお わしがそうさせてきた けんどもう 時は変わった この先は 本家
分家と上下の別なく互いに手をとりおうて商いにはげんでいってほしい」

タキが親戚に詫びながら話しました。親戚を見下し、差別的な言動もあったタキでしたが、何がタキの心を変えたのでしょうか。私は、「生きる意味」を考え、タキなりの答えを見つけたからではないかと思いました。

最後、タキが亡くなる場面では、昔を思い出し、家族について語っています。万太郎と姉は、本当のきょうだいではなかったのです。

「今日からわしら家族になるがじゃ。血のつながりじゃのおて
縁でつながる家族にの」

前回の サヘル・ローズさんと 養母のフローラさんも 縁(えにし)でつながる家族ですね。